

クリスマスは教会で・クリスマスは社会の真ただ中で

待降節が始まりました。各小教区で相応しい心でクリスマスを迎えるようにさまざまな準備が行われていると思います。典礼に導かれて主を待ち望む心は、一人ひとりのうちに、また、共同体の中で培われます。喜びのうちに、クリスマスを祝うことができるように心から祈ります。

クリスマスを喜びのうちに祝う私たちは、この深くて静かな喜びを多くの人々に体験していただきたいのです。この時こそ、キリスト者でない家族のメンバーや友人をクリスマスの夜半のミサに招くことによって、彼らも心の平安を味わい、クリスマスのメッセージをより深く理解することができると思います。そのために声をかけてみるのがとても大切だと思います。そして、教会へ行く前に、クリスマスの祝いやミサの流れについて少しでも説明してあげたら参加しやすくなると思います。ともに祈りをささげる中で、イエスがもたらす平安と喜びを味わい、この賜物をすべての人々が味わえる世界を築いていくための呼びかけを感じるとと思います。クリスマスを教会とともに祝うように呼びかけましょう。

しかし、同時に、クリスマスを祝う中で与えられる恵みを社会の真ただ中で活かさなければなりません。これは、クリスマスのもう一つの大事な側面だと思います。馬小屋の飼い葉桶に寝かされている幼子の前にひざまずく人は、現代社会の中で弱い立場に置かれている人々の前にもひざまずくはずです。「天には神に栄光、地には人々に平和」と、イエスの誕生の夜に聞こえた天使の歌の実現を望むなら、排除され、見捨てられている人々に寄り添って、彼らの叫びに耳を傾け、彼らの状況を心に留めて、関わるのが欠かせないことです。宿

屋に泊まる場所がなかったマリアとヨゼフを受け入れると、私たちのところでイエスが生まれるのです。幼子イエスを通して神に触れ、その愛を味わうことができます。マタイ福音書で伝えられているイエスの言葉を思い出す必要があります。「これらのもっとも小さな者にしたのは、わたしにしたのだ」と。

クリスマスの喜びと平安は、それを必要としている人々と分かち合うことによってより深いものになります。ベツレヘムに出向いた羊飼いのように、私たちも教会での祝いだけにとどまらず、出向いて行って、社会の中で「よい知らせ」を待っている人々との出会いに心を閉じてはなりません。

ヨゼフ・アベイヤ